令和5年 11 月 22 日

地域産業構造転換インフラ整備に係るプロジェクト選定の基本的考え方

1. プロジェクト選定の基本的考え方

地域における産業構造の転換の加速化や雇用機会の創出に資する半導体などの大規模な産業拠点整備のうち、真に国策的見地から支援すべきプロジェクトであって、かつ、当該関連インフラを一体的に整備する高度の必要性・緊急性等があると認められるものを厳選して選定する。

2. プロジェクト選定の視点

以下の3つの視点を踏まえ、支援対象とするプロジェクトの選定を進める。

- ① 半導体など、国策的見地から支援すべき大規模な産業拠点整備を行うリーディングプロジェクトであって、相当規模の立地・投資を伴うものであること。

具体的には、

- ・政府の戦略分野(まず対応すべきは半導体分野)を中心とした産業構造の転換に資するプロジェクトであり、かつ、特に大規模なリーディングプロジェクトであること。
なお、投資規模については、概ね 1,000 億円を上回ることを目安とし、政策的意義や雇用など波及効果も考慮して総合的に判断する。
- ・法令に基づく認定その他の国の主体的な関与のもとで推進される民間プロジェクトであること。
- ・長期にわたる継続的かつ安定的な生産・稼働が見込まれること。

- ② 関連インフラを一体的かつ集中的に整備する緊急性・合理性があること。

具体的には、

- ・周辺地域において基礎的なインフラが整備されているなど、プロジェクトの立地箇所が産業用地としての需要に応じる基礎的な条件を備えるとともに、災害リスクによる影響が軽微であると見込まれるエリアへの新規立地であるなど、立地箇所の選定として合理的なものであると認められるものであること。
- ・プロジェクトに伴って新たに追加的に生じるインフラの整備について、その整備の遅れが当該プロジェクトの安定的かつ円滑な操業に対する制約要因となることが見込まれ、緊急的にその解消を図る必要があること。
- ・追加的に整備を要する関連インフラが複数種別にわたり、これらを一体的かつ集中的に整備する必要があること。

- ③ 雇用機会の創出、地域経済の活性化など、周辺地域の地方創生に寄与すること。